

証券コード：9412

株式会社スカパーJSATホールディングス



2024年3月期 第3四半期

決算説明会

2024年2月7日

将来の見通しに関する記述

本説明資料に掲載されている予想、戦略、経営方針、目標等のうち、歴史的事実でないものは、将来の見通しに関する記述であり、現在入手可能な情報にもとづく経営者の前提、計画、期待、判断などを基礎としています。

これらの将来の見通しに関する記述は、様々なリスクや不確定要因の影響を受けるため、現実の結果が想定から著しく異なる可能性があります。このようなリスクや不確定要因のうち、現在想定しうる主要なものには、以下のようなものが含まれます。なお、リスクや不確定要因はこれらに限られるものではありませんのでご留意下さい。

事業全般

- 事業投資等に関するリスク
- 事業上の法的規制に関するリスク
- 個人情報及び重要情報の流出や取扱い及びサイバーセキュリティに関するリスク
- 大規模災害、新型感染症等による事業継続に関するリスク

宇宙事業

- 衛星通信市場における競争力低下のリスク
- 通信衛星調達に関するリスク
- 通信衛星の運用に関するリスク

メディア事業

- 有料多チャンネル事業の事業性低下に関するリスク
- 不正視聴に関するリスク
- 顧客管理システムに関するリスク

令和6年能登半島地震の影響と取り組み

- 宇宙
- ✓ 災害対応のための緊急衛星回線利用増・容量拡張実施
- ✓ 地震前後の衛星画像公開

■ 光学衛星画像

地震前

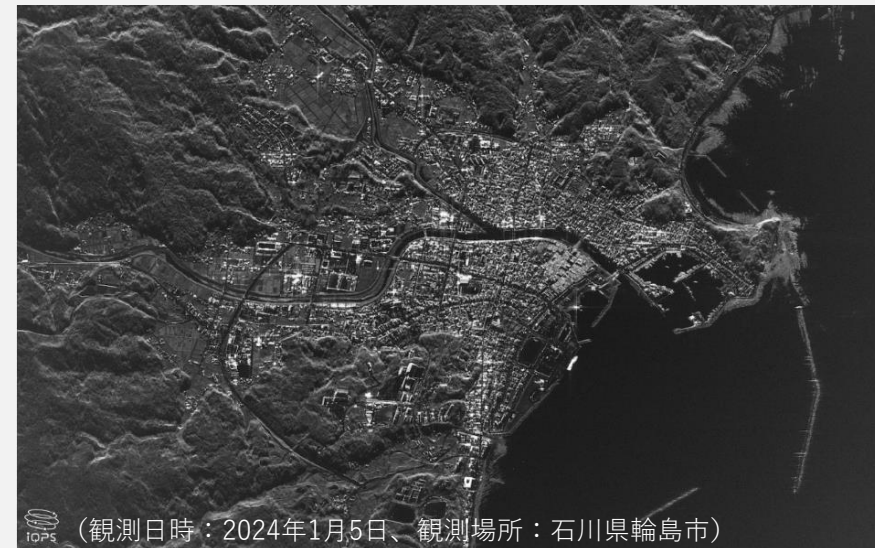


地震後



<https://www.skyperfectjsat.space/jsat/service/planet/#>

■ SAR衛星画像 (QPS研究所)



<https://i-qps.net/news/1614/>

- メディア
- 災害の被害を受けられた方々への視聴料等の免除

- 業績
- 業績への影響は軽微

業績

- 業績予想を上方修正、通期純利益予想165億円。営業利益は過去最高益を見込む

宇宙事業

- 国内、海外とも堅調に推移。増収を牽引
- 宇宙デブリ除去プロジェクトの事業化
- Amazon Project Kuiper、NTTグループと戦略的協業に合意
- 安全保障分野における取り組みを強化

メディア事業

- 投資有価証券評価損の計上も、営業利益はほぼ横ばい
- FTTH地上波等再送信事業が収益貢献

ESG

- 令和6年能登半島地震の影響と取り組み
- 再生可能エネルギーへの切り替えは99.55%まで達成

株主還元

- 自己株式取得（50億円 739万株）の完了
- PBR改善に向けた取り組み継続

2024年3月期 第3四半期連結業績概要

2023年度通期業績予想修正

■ 営業利益は過去最高益を見込む

(百万円)

	2022年度 通期実績	2023年度 通期業績予想 (2023年4月28日発表)	2023年度 通期業績予想 (今回発表)	増減額
営業収益	121,139	121,000	121,500	+500
営業利益	22,324	22,500	25,000	+2,500
経常利益	23,194	22,000	25,300	+3,300
親会社株主に 帰属する当期純利益	15,810	15,000	16,500	+1,500
EBITDA*	45,562	43,600	46,000	+2,400

* EBITDA = 純利益 + 税金費用 + 減価償却費 + のれん償却費 + 支払利息

2023年度通期セグメント別業績予想修正

- 両事業において運営コストの低減や一部の先行費用の発生延期等を見込むため
営業利益、セグメント利益を上方修正

(百万円)

	2023年度 通期業績予想 (2023年4月28日発表)				2023年度 通期業績予想 (今回発表)			
	宇宙 事業	メディア 事業	消去又は 全社	連結 合計	宇宙 事業	メディア 事業	消去又は 全社	連結 合計
営業収益	64,000	66,500	△9,500	121,000	64,500 (+500)	66,500 (±0)	△9,500 (±0)	121,500 (+500)
営業利益	20,500	2,700	△700	22,500	22,200 (+1,700)	3,500 (+800)	△700 (±0)	25,000 (+2,500)
セグメント 利益	13,500	2,000	△500	15,000	15,000 (+1,500)	2,000 (±0)	△500 (±0)	16,500 (+1,500)

() 内は増減額

連結業績概況

- 連結業績は引き続き前年同期比増収増益
- 宇宙事業はグローバル・モバイル分野、国内衛星ビジネス分野とも引き続き堅調
- メディア事業は第2四半期の投資有価証券評価損計上がセグメント利益を押し下げ

(百万円)

	2022年度 3Q累計	2023年度 3Q累計	増減率	2023年度通期 業績予想(修正後)	通期予想 進捗率
営業収益	88,594	91,022	+ 2.7%	121,500	74.9%
営業利益	16,714	20,541	+ 22.9%	25,000	82.2%
経常利益	17,125	20,934	+ 22.2%	25,300	82.7%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	11,386	13,376	+ 17.5%	16,500	81.1%
EBITDA *	33,696	36,269	+ 7.6%	46,000	78.8%

* EBITDA = 純利益 + 税金費用 + 減価償却費 + のれん償却費 + 支払利息

セグメント別業績概況：宇宙事業



- JCSAT-1C、Horizons 3eの利用拡大と国内における回線利用、機器販売等の拡大が継続
- 増収と減価償却費の減少等により前年同期比増益

営業収益

(百万円)

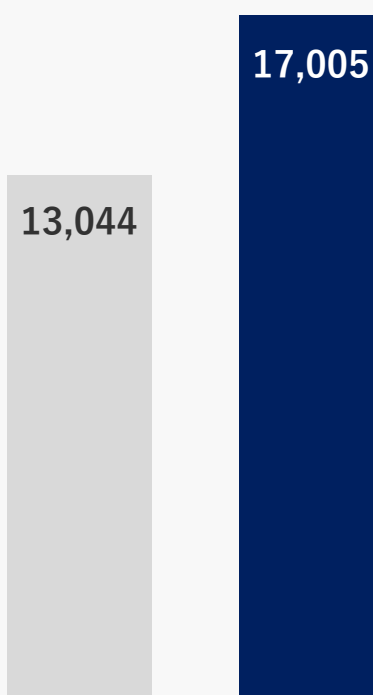


2022年度
3Q累計

2023年度
3Q累計

営業利益

(百万円)

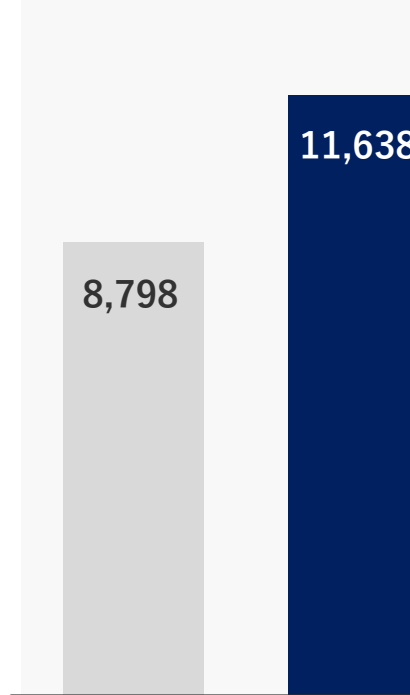


2022年度
3Q累計

2023年度
3Q累計

セグメント利益*

(百万円)



2022年度
3Q累計

2023年度
3Q累計

主な増減要因（前年同期比）

- **営業収益 476億円（+38億円）****
 - ・ グローバル・モバイル分野の増加：+18億円
 - ・ 国内衛星ビジネス分野の増加：+17億円
 - ・ 放送トラポン収入の減少：△4億円
- **営業費用 306億円（△2億円）****
 - ・ 減価償却費の減少：△7億円
 - ・ 衛星事業原価等の増加（主に機器販売原価）：+5億円
- **営業利益 170億円（+40億円）**
- **セグメント利益 116億円（+28億円）**

* セグメント利益は「純利益」ベースの数値

** セグメント間の内部取引を含む



セグメント別業績概況：メディア事業

- 放送の減収も、既存事業の収支改善とFTTH事業収入増で減益幅は縮小し、営業利益はほぼ横ばい
- 投資有価証券評価損の計上がセグメント利益を押し下げ

営業収益

(百万円)

2022年度 3Q累計	52,131
2023年度 3Q累計	50,515

営業利益

(百万円)

2022年度 3Q累計	4,181
2023年度 3Q累計	4,112

セグメント利益*

(百万円)

2022年度 3Q累計	2,968
2023年度 3Q累計	2,141

主な増減要因（前年同期比）

- **営業収益 505億円（△16億円）****
 - ・ 視聴料・業務手数料・基本料収入の減少：△18億円
 - ・ FTTH事業収入の増加：+2億円
- **営業費用 464億円（△15億円）****
 - ・ 広告宣伝・販促費の減少：△6億円
 - ・ 衛星回線料等の減少：△6億円
 - ・ 減価償却費の減少：△1億円
- **営業利益 41億円（△1億円）**
- **セグメント利益 21億円（△8億円）**
 - ・ 投資有価証券評価損：△8億円

* セグメント利益は「純利益」ベースの数値

** セグメント間の内部取引を含む

2030年に向けて

新領域に2,000億円以上の投資を予定

SPACE

新技術の活用と
事業領域拡大

1,500億円
以上

既存
衛星通信 →

- Universal NTN
- 光データ中継
- ビジネスインテリジェンス

2030年セグメント利益目標 210億円

MEDIA

映像体験を超える
新領域への進出

500億円
以上

衛星放送
/FTTH →

- コネクテッドTV
- メディアソリューション
- コンテンツデータベース
- リアルサービス

2030年セグメント利益目標 50億円

サステナブルな成長
2030年に当期純利益250億円超を目指す

社会と会社の持続的な成長を目指す

ミッション

サステナビリティ方針

Space for your Smile

経済的価値

2030年目標 当期純利益 250億円超

社会的価値

社会の安心・安全を守り、
ワクワクする未来の創造に貢献する

事業ビジョン

宇宙事業

すべての空間を対象とした革新的な通信ネットワーク
及び地球規模のデータ収集ネットワークを構築し
超スマート社会の実現に貢献

メディア事業

人と人、企業、社会をつなぐプラットフォームとして
多様で創造性豊かな社会の実現に貢献

経営戦略

“変革”による価値の創出

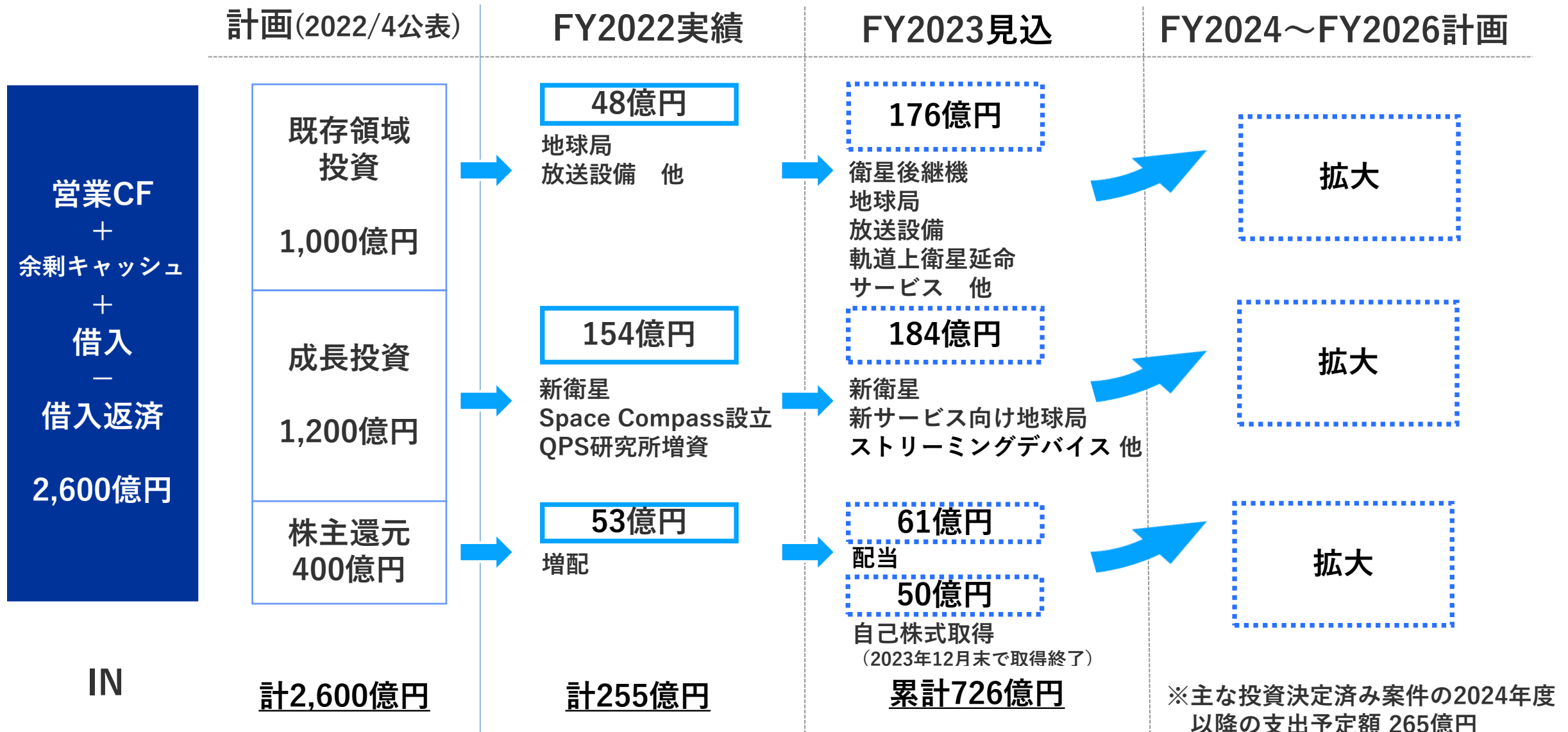
新領域事業の展開

既存事業の
収益性強化

人的資本強化

経営基盤拡充

キャピタルアロケーションの進捗 (FY2022~FY2026)

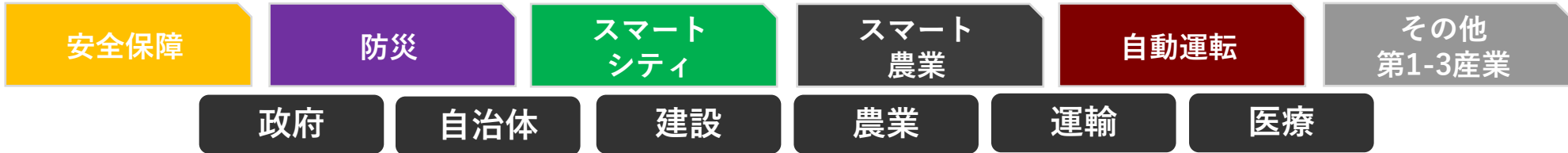


※主な投資決定済み案件の2024年度以降の支出予定額 265億円
 (主な案件：Superbird-9、ETS-9、新規地球局、Space Compassなど)

すべての空間を対象とした革新的な通信ネットワーク及び地球規模のデータ収集ネットワークを構築し、超スマート社会の実現に貢献する。



2030年セグメント利益目標
210億円



理化学研究所との共同研究を経て、民間企業で世界初の商用利用に向け、レーザーを用いたスペースデブリ除去事業、衛星ライダー事業開始

社名：株式会社Orbital Lasers

所在地：東京都港区赤坂

設立：2024年1月12日

株主：スカパーJSATほか

主な事業内容：

➤ **スペースデブリ除去事業**

- ・DTB (Detumbling) 事業

スペースデブリの回転を止めるペイロードの開発・販売 (2025年度予定)

- ・ADR (Active Debris Removal) 事業

スペースデブリを除去するサービス (2029年度予定)

➤ **衛星ライダー (LiDAR : Light Detection and Ranging) 事業**

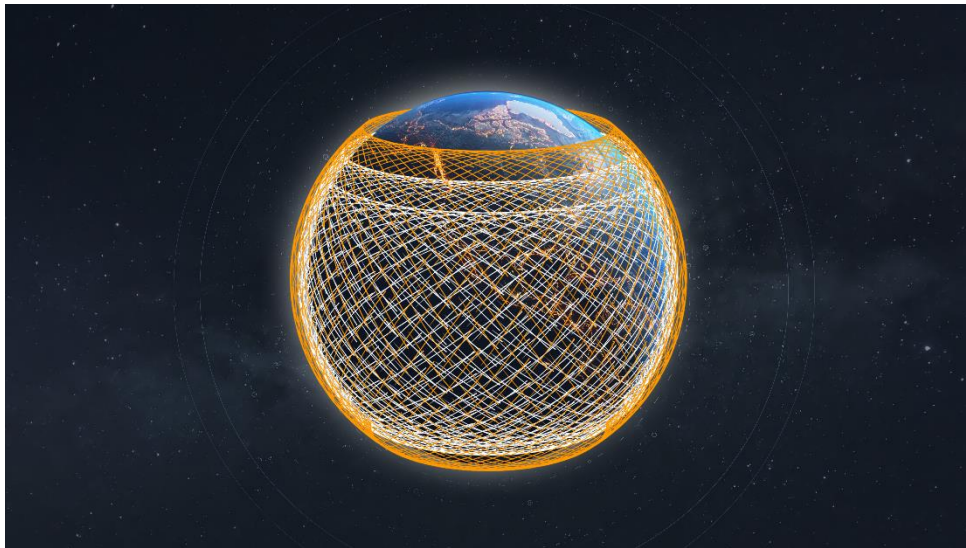
- ・地球観測事業

衛星ライダーによる高精度な地表面情報の取得・提供 (計画中)



Amazon Project Kuiper、NTTグループと戦略的協業に合意

- 低軌道衛星ブロードバンドサービスを国内で提供予定
- 将来の幅広い協業に向けた検討を開始
- Amazonグループ、NTTグループとの協業を通じて、新たな価値の創出を目指す



Kuiperの低軌道衛星コンステレーションイメージ



初回衛星打ち上げロケット



Project Kuiperのアンテナ

写真提供：アマゾン ウェブ サービス

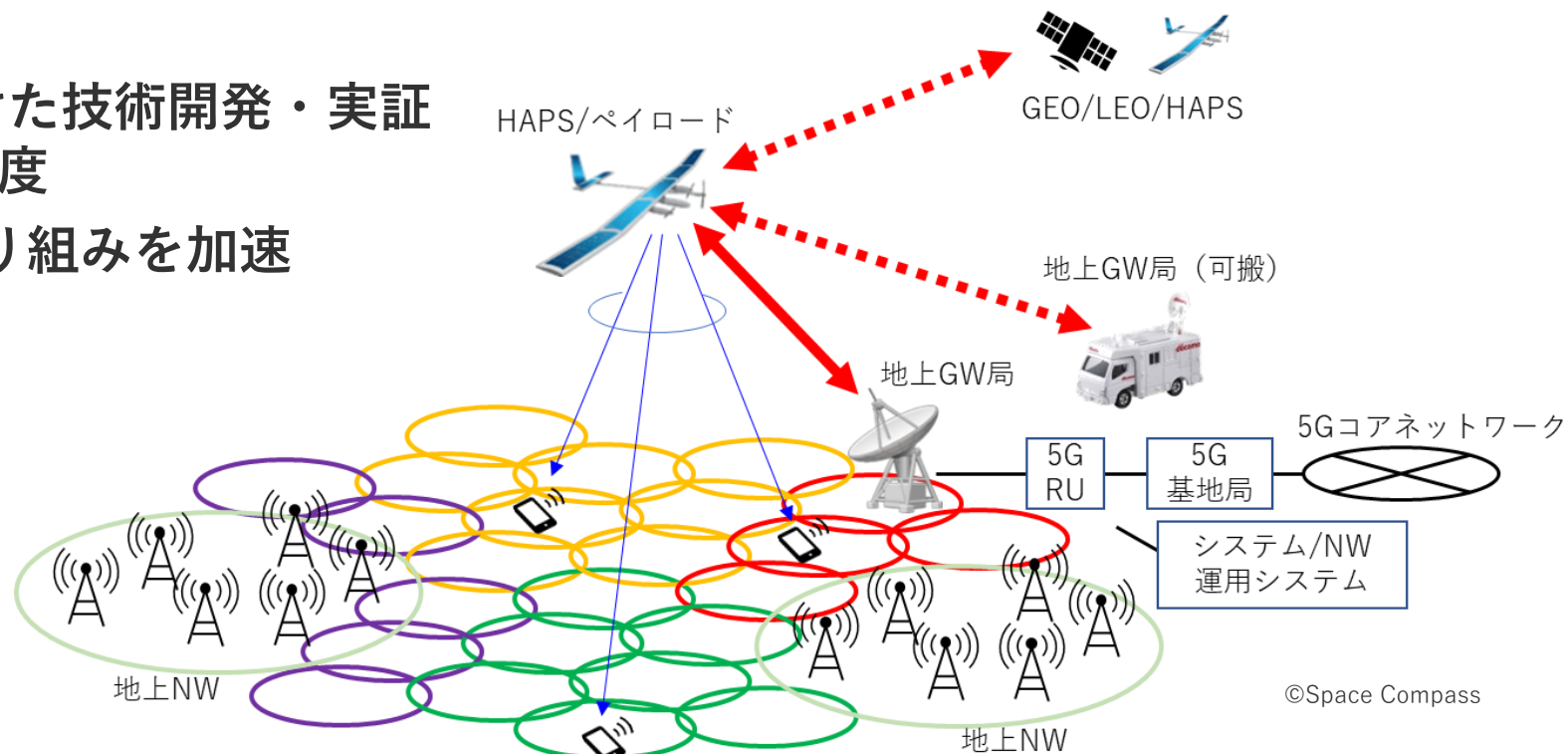
Amazon Project Kuiperに関する詳細情報（英語）：<https://www.aboutamazon.com/what-we-do/devices-services/project-kuiper>

宇宙統合コンピューティング・ネットワークの実現に向けて

総務省・NICT公募

「HAPS高速大容量化技術・周波数利用効率改善技術の開発・実証」

- HAPSとスマホの直接通信に向けた技術開発・実証
・ 期間：2023年度下期～2027年度
- 宇宙RAN事業の実現に向けた取り組みを加速



©Space Compass

HAPS直接通信システムの早期実用化と高速大容量化技術の研究開発

宇宙統合コンピューティング・ネットワークの実現に向けて

マイクロソフトと軌道上スペースエッジコンピューティングの開発・実証

- 地球観測衛星が取得したデータを衛星内で解析処理
- 光データリレーサービスとの組み合わせにより、リアルタイム・効率的な衛星データ活用ソリューション提供を目指す



JAXA認定スタートアップ「天地人」と出資契約締結 業務提携により衛星データ事業拡大を加速

- 衛星データ解析体制の連携、人材交流による両社事業の強化
- 民間領域における事業連携
- 地理情報プラットフォーム「天地人コンパス」を活用した事業の推進
 - 太陽光発電量シミュレーション事業
 - 水道管の漏水リスク管理業務システム「天地人コンパス 宇宙水道局」事業



Tenchijin

社名：株式会社天地人

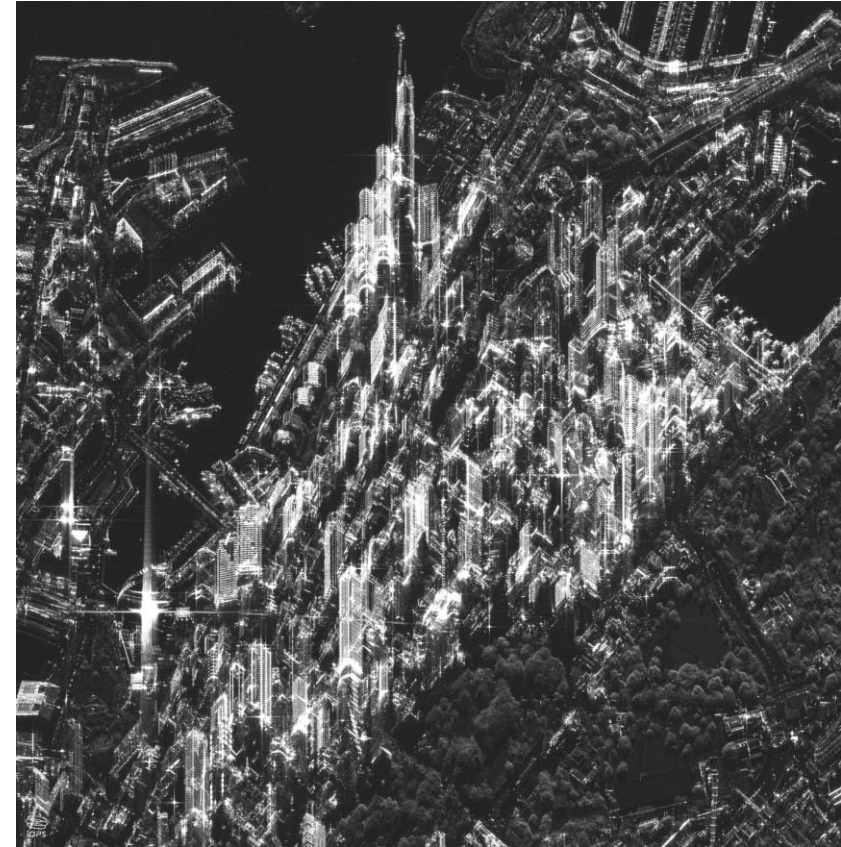
代表者：代表取締役 櫻庭 康人

事業内容：衛星データを使った土地評価コンサル等

QPS研究所と連携強化 小型SAR衛星コンステレーション活用事業を推進

- 2023年12月、東証グロース市場に上場
- QPS-SAR6号機（2023年6月打ち上げ済み）
 - サービス提供開始
- QPS-SAR5号機
 - 2023年12月 打ち上げ成功
 - 2024年 1月 初画像（ファーストライト）取得に成功
 - 2024年 2月 高精細モード（スポットライトモード）による日本最高※分解能46cmの画像取得に成功

※民間のSAR衛星として。またQPS-SAR6号機も同じ分解能で観測可能。



QPS-SAR5号機「ツクヨミ-I」によるスポットライトSAR画像
〈オーストラリア シドニー〉

■ 地球観測市場の成長: 市場規模は40億ドル(2022年)から70億ドル (2030年)* へ急成長

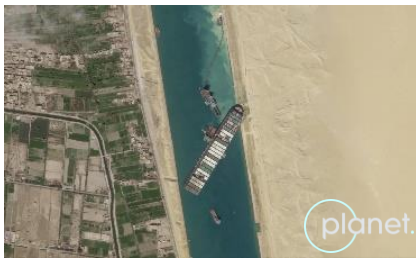
*出所: EUROCONSULT Earth Observation Data & Services Market 2023

■ データ活用技術の高度化: AI技術を組み合わせるなど、衛星データの付加価値向上競争が激化

光学

一般的な写真と同様、可視光線を使った観測。

Planet, BlackSky, AXELSPACE, MAXAR, AIRBUS, Satellogic, ISI etc.



SAR

マイクロ波の反射を観測して地形を調べる。昼夜天候を問わず観測可能。

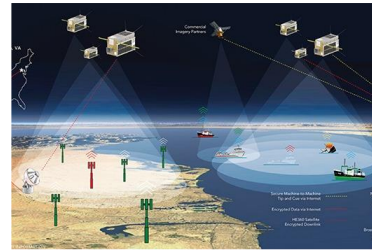
iQPS, Synspective, ICEYE, Capella Space, UMBRA, Hisdesat, EOS etc.



電波

地上から発信される各種RF信号を捉え、信号の発信位置を特定。

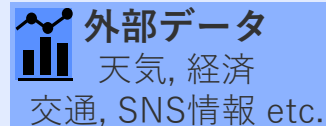
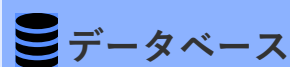
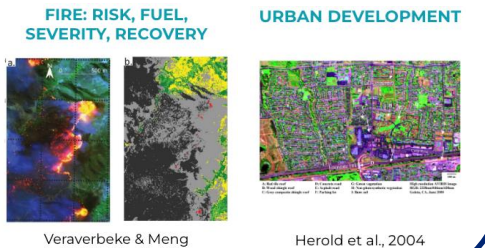
HawkEye 360, Spire, Aurora Insight, KLEOS SPACE, e-GEOS etc.



Hyperspectral

従来より詳細に物質を識別。温室効果ガス、鉱物・植生が詳細に特定可能で、環境、農林水産、防災等の様々な分野への活用が期待される。

Planet, GHGSat, Satellogic, Wyvern etc.



安全保障分野における取り組み

- 宇宙利用の拡大に伴い、宇宙安全保障産業の成長が見込まれる。
- 新たな需要取り込みと積極的な投資により、事業成長と社会貢献を目指す。

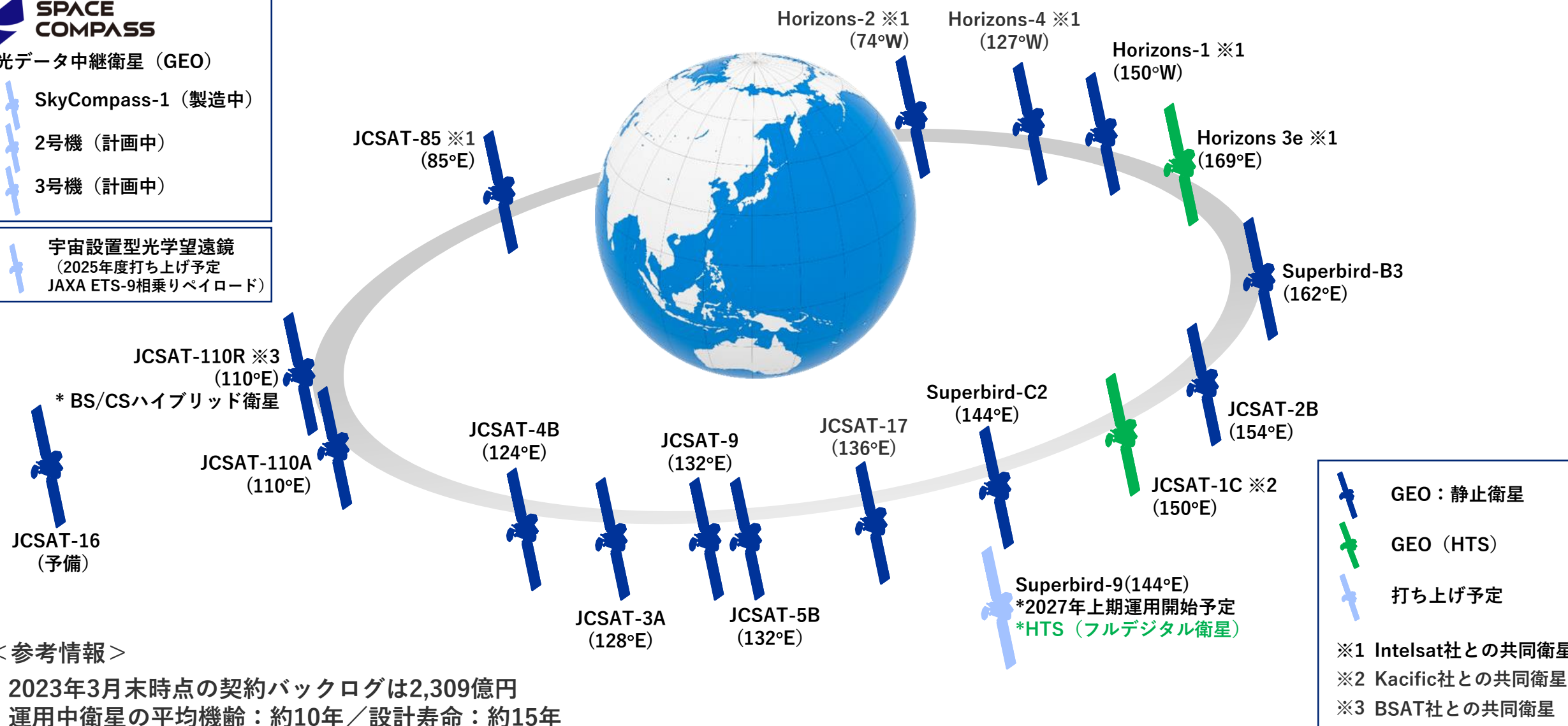


北米上空からインド洋上空まで 計17機 の衛星を保有

SPACE COMPASS
光データ中継衛星 (GEO)

- SkyCompass-1 (製造中)
- 2号機 (計画中)
- 3号機 (計画中)

宇宙設置型光学望遠鏡
(2025年度打ち上げ予定
JAXA ETS-9相乗りペイロード)



< 参考情報 >

- ・ 2023年3月末時点の契約バックログは2,309億円
- ・ 運用中衛星の平均機齢：約10年 / 設計寿命：約15年

メディア事業ビジョン

人と人、企業、社会をつなぐプラットフォームとして
多様で創造性豊かな社会の実現に貢献する

「放送+配信+リアル」でファンの体験を拡張

コネクテッドTV

ドングル/広告PF構築

多チャンネル/基幹商品/ライブ・録画

放送

ライブ・VOD
ニッチジャンル

配信

イベント
グッズ/ツアー

リアル

リアル体験

ファンの体験

メディア
ソリューション

FTTH再送信

コールセンター

事業基盤

東京メディアセンター

メディア
HUBクラウド

コンテンツ
データベース

2030年
セグメント
利益目標

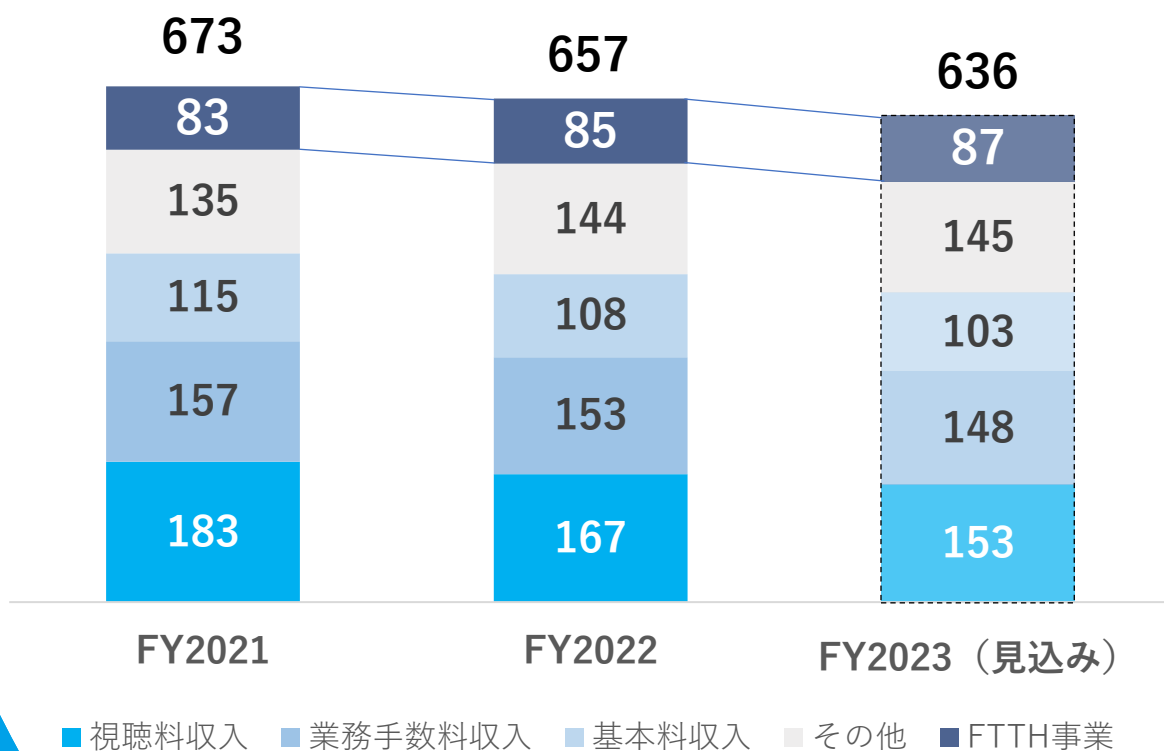
50億円

FTTH再送信事業

FTTH再送信事業の収益が成長

<営業収益推移>※

(億円)

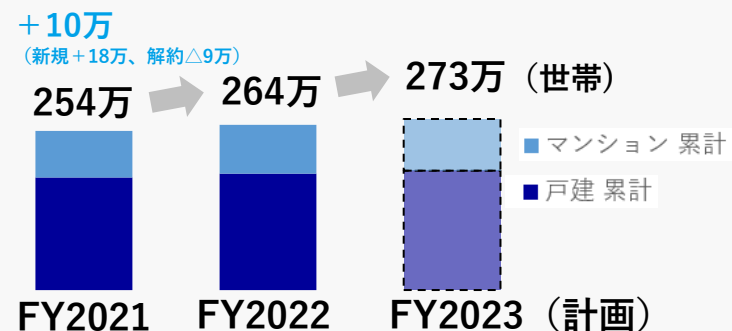


※上記営業収益はセグメント間取引を除いた外部顧客への売上高ベースで記載

<件数推移>

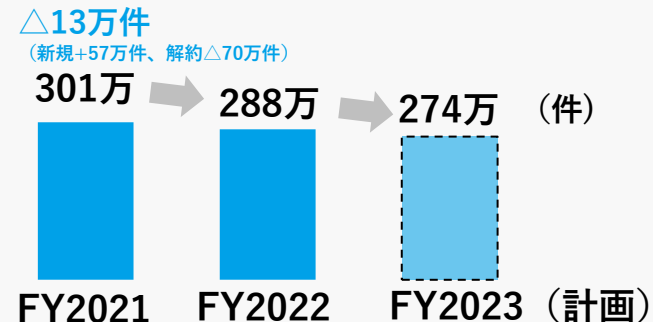
FTTH

光再送信サービス
接続世帯数



スカパー!

有料多チャンネル放送
3サービス累計加入件数 (IC数)



FTTH再送信サービス： 大規模マンションへの提供拡大

MEDIA

FTTH

■ 東京五輪選手村跡地 HARUMI FLAG 1,487戸にてサービス開始

物件名 : HARUMI FLAG PORT VILLAGE

物件所在地 : 東京都中央区晴海5丁目

分譲戸数 : 1,487戸

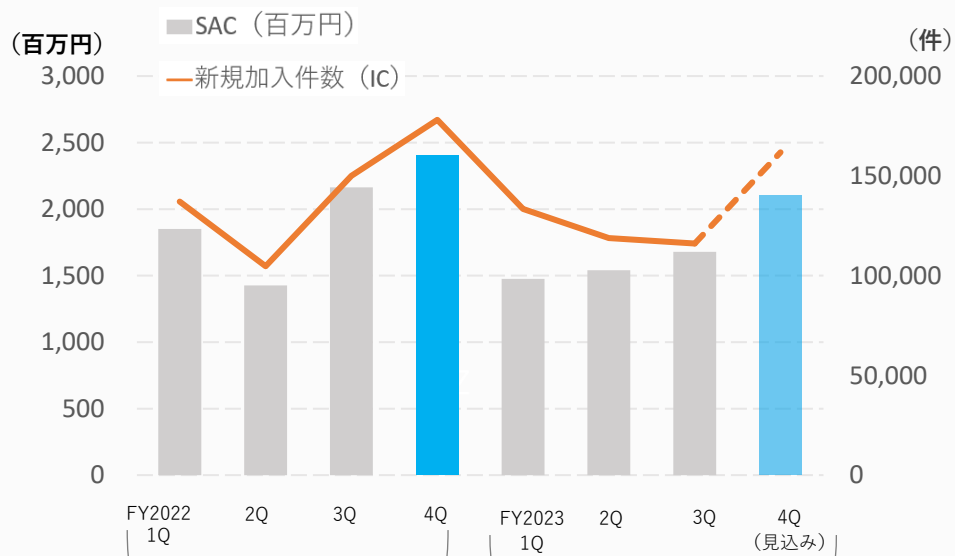
提供開始日 : 2024年1月15日



放送事業：コストの季節変動

コストコントロールを継続しながら、プロ野球、国内サッカー、F1など、スポーツ開幕が重なる第4四半期にSACを重点投下

四半期別 SAC、新規加入件数推移



FY2022合計
 ・SAC 78億円
 ・新規加入件数57万件

SAC削減
10億円

FY2023合計 (見込み)
 ・SAC 68億円
 ・新規加入件数53万件

2024シーズンも プロ野球全12球団を放送・配信



- ・累計契約件数
前年比 102%
(2023年2月-2024年1月)
- ・昨年好調のU30初めて割
キャンペーンを継続
- ・プロ野球セットアプリは
スマホでも視聴可能!



月額4,054円 (税込)



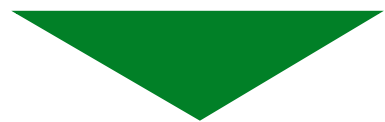
E



地球と生きる

カーボンニュートラル達成に向けた取り組み

- Scope1、Scope2のカーボンニュートラル達成を2030年から2025年前倒し



グループ拠点において
実質再生可能エネルギーへ
順次切り換え

再エネ使用率
99.55%*

*2022年度の当社使用電力量実績をベースに算出しています。

G



正しくしなやかな経営

初の「ポジティブ・インパクト・ファイナンス」による資金調達

- 事業活動を通じて5つのコアインパクトと10個のKPI及び目標に取り組む

KPI例

衛星フリートの利用帯域拡大
リモートセンシング案件の拡大
女性管理職比率の男女比相当化*
男性育児休業取得率の上昇*

*スカパーJ S A T(株)単体

「2030年にありたい姿」に向けた
サステナビリティ経営

未知の大陸、生物、物質。
進化の歴史とは、未知との遭遇の歴史だ。
未知へひとたび飛びこめば、
想像をこえた景色が広がっている。
好奇心にあふれた仲間が集まる。
努力を、努力と忘れてしまう場所。
私たちが魅入られた未知は、宇宙。
誰かを笑顔にする、誰かの安全を守る、
新たな価値を見出してきた。
そしてまだ1%も探れていない。
残りの99%、
この地上から宇宙へ広がる空間で、
世界が驚くビジネスを。
見たこともないエンターテインメントを。
人工衛星たちと共に。

未知を、 価値に。

宇宙実業社

スカパーJSTAT

参考資料

四半期セグメント別業績の進捗

(百万円)

() は前年同期比

2023年度

2023年度
修正
業績予想

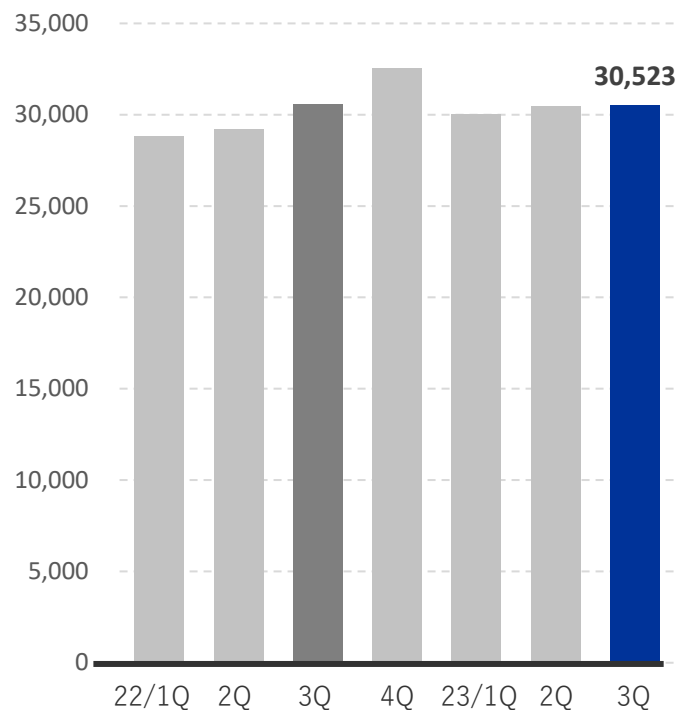
(2024年2月7日公表)

	2023年度					進捗率	2023年度 修正 業績予想 (2024年2月7日公表)
	1Q	2Q	3Q	3Q累計			
営業収益	30,009 (104%)	30,488 (104%)	30,523 (100%)	91,022 (103%)	74.9%	121,500 (100%)	
宇宙事業	15,445 (112%)	15,593 (109%)	16,563 (106%)	47,602 (109%)	73.8%	64,500 (104%)	
メディア事業	16,965 (97%)	17,265 (100%)	16,284 (94%)	50,515 (97%)	76.0%	66,500 (97%)	
営業利益	6,919 (125%)	6,482 (116%)	7,140 (128%)	20,541 (123%)	82.2%	25,000 (112%)	
宇宙事業	5,670 (137%)	5,433 (129%)	5,902 (125%)	17,005 (130%)	76.6%	22,200 (116%)	
メディア事業	1,453 (91%)	1,231 (80%)	1,428 (138%)	4,112 (98%)	117.5%	3,500 (91%)	
セグメント利益 親会社株主に帰属する純利益	4,982 (124%)	3,573 (97%)	4,820 (131%)	13,376 (117%)	81.1%	16,500 (104%)	
宇宙事業	4,008 (136%)	3,680 (140%)	3,949 (123%)	11,638 (132%)	77.6%	15,000 (111%)	
メディア事業	1,081 (93%)	△1 (0%)	1,061 (152%)	2,141 (72%)	107.1%	2,000 (72%)	

四半期連結業績推移 (FY2022/1Q – FY2023/3Q)

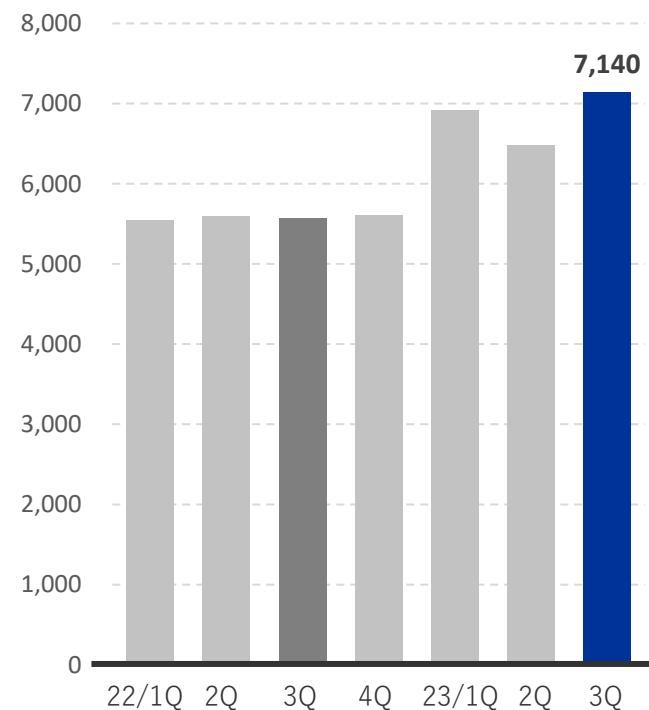
営業収益

(百万円)



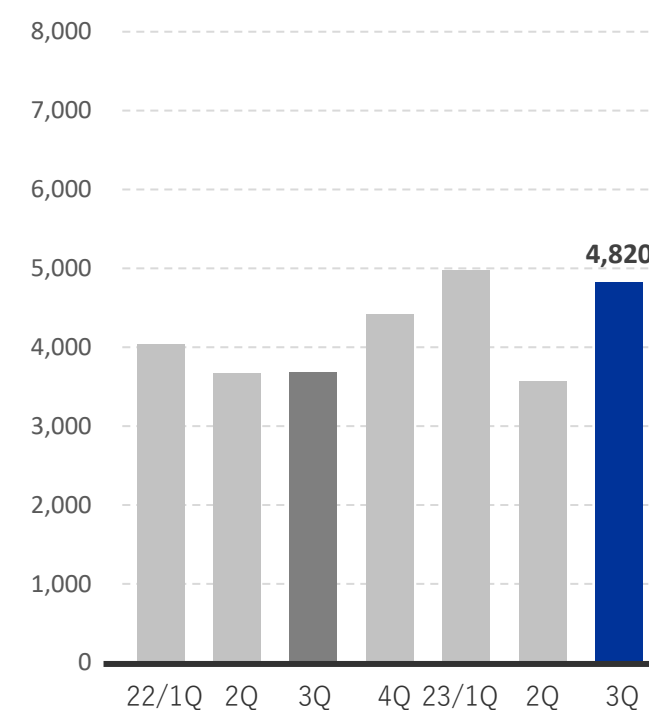
営業利益

(百万円)

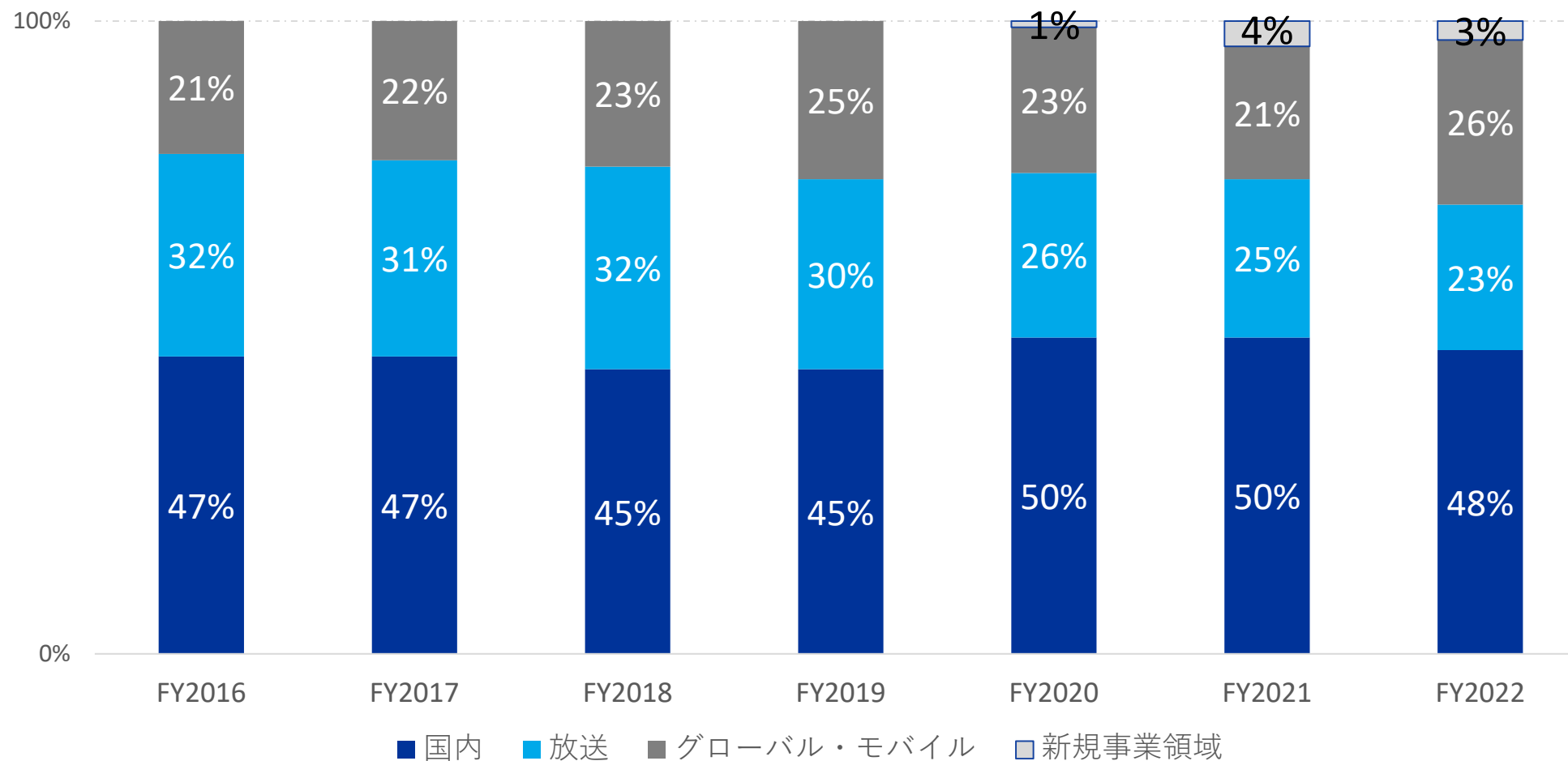


四半期純利益

(百万円)



宇宙事業 営業収益構成比



※2016年度、2018年度の防衛省向け通信衛星売却の影響を除く

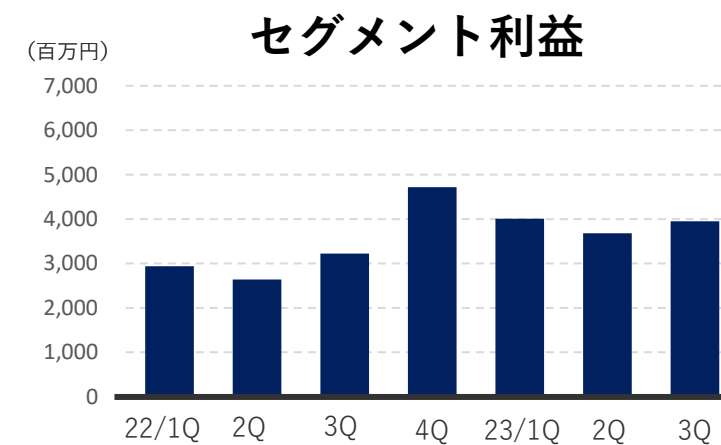
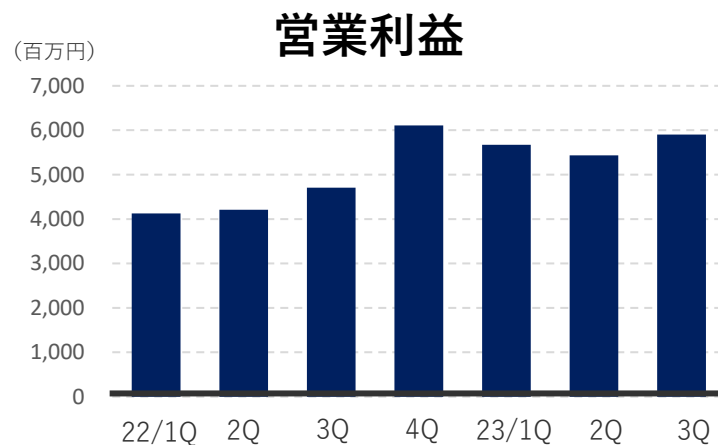
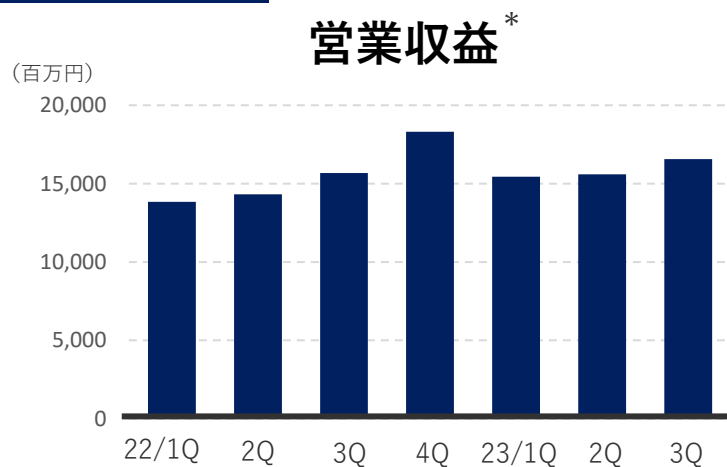
※2021年度から収益認識に関する会計基準等を適用

※2021年度の構成比は、画像販売収入の一部を国内から新規事業領域に組み替えて再計算

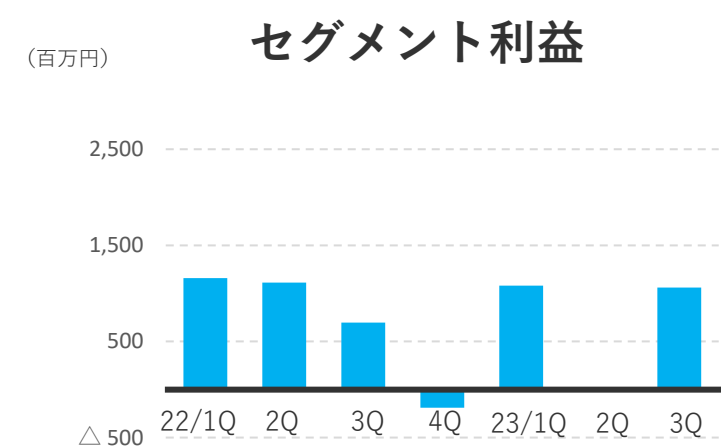
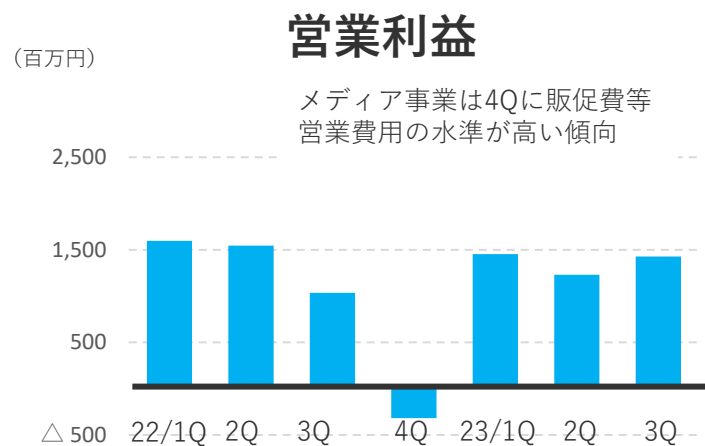
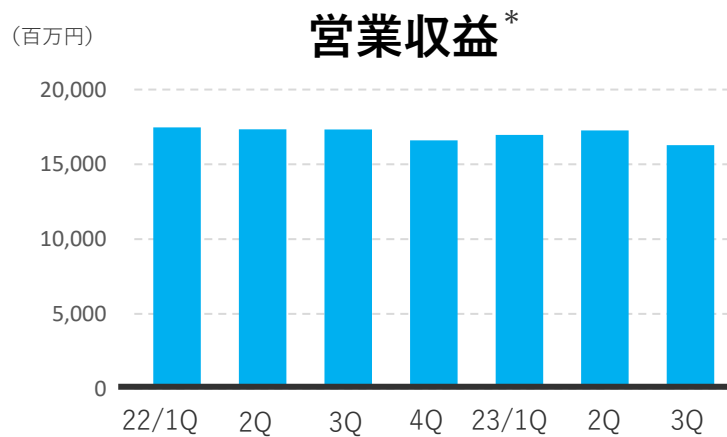
セグメント別四半期業績(2022/1Q - 2023/3Q)

宇宙事業

* 各数値はセグメント間の内部取引を含む。



メディア事業



セグメント別四半期業績(2022/1Q - 2023/3Q)

対前年同四半期比較

(百万円)

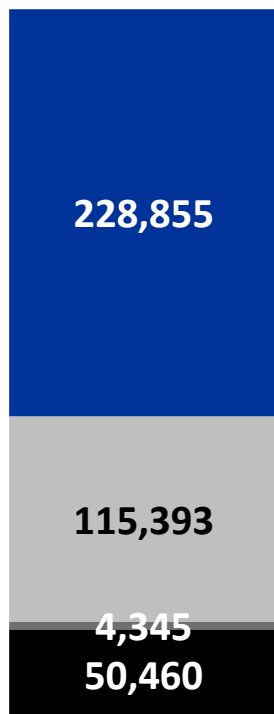
	2022年度					2023年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q
営業収益	28,806	29,190	30,597	32,545	121,139	30,009	30,488	30,523
宇宙事業	13,841	14,319	15,677	18,314	62,154	15,445	15,593	16,563
メディア事業	17,463	17,340	17,326	16,601	68,733	16,965	17,265	16,284
消去又は全社	△2,499	△2,470	△2,406	△2,370	△9,747	△2,401	△2,370	△2,324
営業利益	5,551	5,595	5,566	5,609	22,324	6,919	6,482	7,140
宇宙事業	4,128	4,208	4,708	6,106	19,151	5,670	5,433	5,902
メディア事業	1,598	1,546	1,036	△318	3,863	1,453	1,231	1,428
消去又は全社	△175	△158	△178	△177	△690	△203	△181	△190
セグメント利益 (親会社株主に帰属する四 半期(当期)純利益)	4,033	3,669	3,683	4,423	15,810	4,982	3,573	4,820
宇宙事業	2,938	2,637	3,221	4,717	13,515	4,008	3,680	3,949
メディア事業	1,159	1,113	696	△189	2,779	1,081	△1	1,061
消去又は全社	△64	△81	△234	△104	△484	△107	△105	△190

連結貸借対照表

資 産

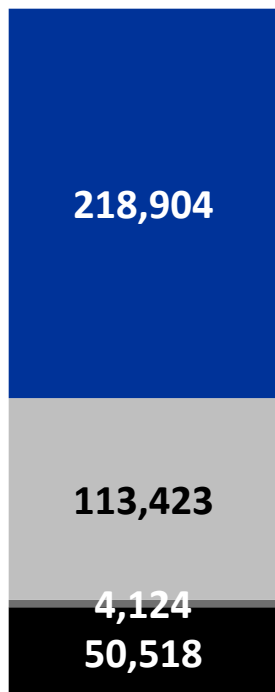
(百万円)

399,055



2023年3月末

386,970



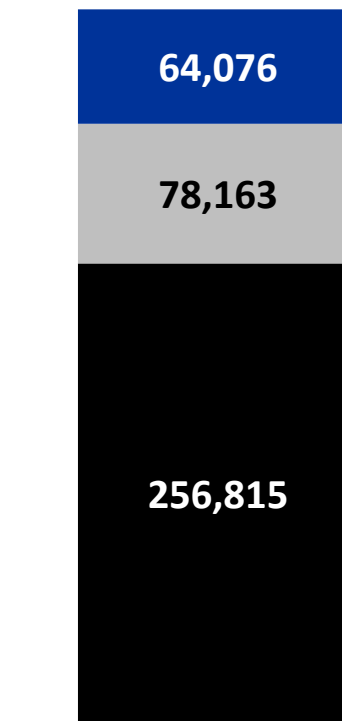
2023年12月末

負債・純資産

自己資本比率： 64.0% → 67.8%

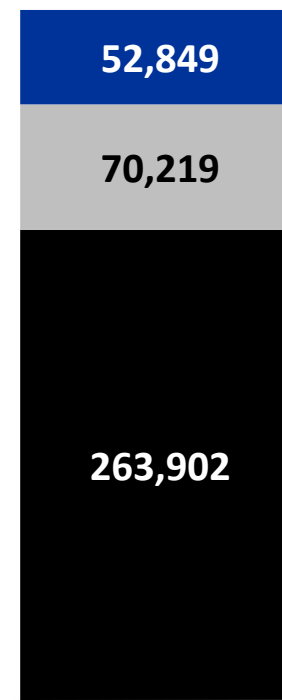
(百万円)

399,055



2023年3月末

386,970



2023年12月末

流動資産

有形固定資産

無形固定資産

投資その他資産

流動負債

固定負債

純資産

連結キャッシュ・フロー

(百万円)

	2022年度 3Q累計	2023年度 3Q累計
営業活動によるキャッシュ・フロー	42,962	23,269
投資活動によるキャッシュ・フロー	△16,923	△8,755
フリー・キャッシュフロー (*1)	26,039	14,514
財務活動によるキャッシュ・フロー	△18,773	△20,409
現金及び現金同等物の四半期末残高(a)	94,311	102,839
有利子負債四半期末残高 (*2) (b)	74,575	65,870
純有利子負債四半期末残高 (b) - (a)	△19,735	△36,968

*1. 営業活動によるキャッシュフロー+投資活動によるキャッシュフロー

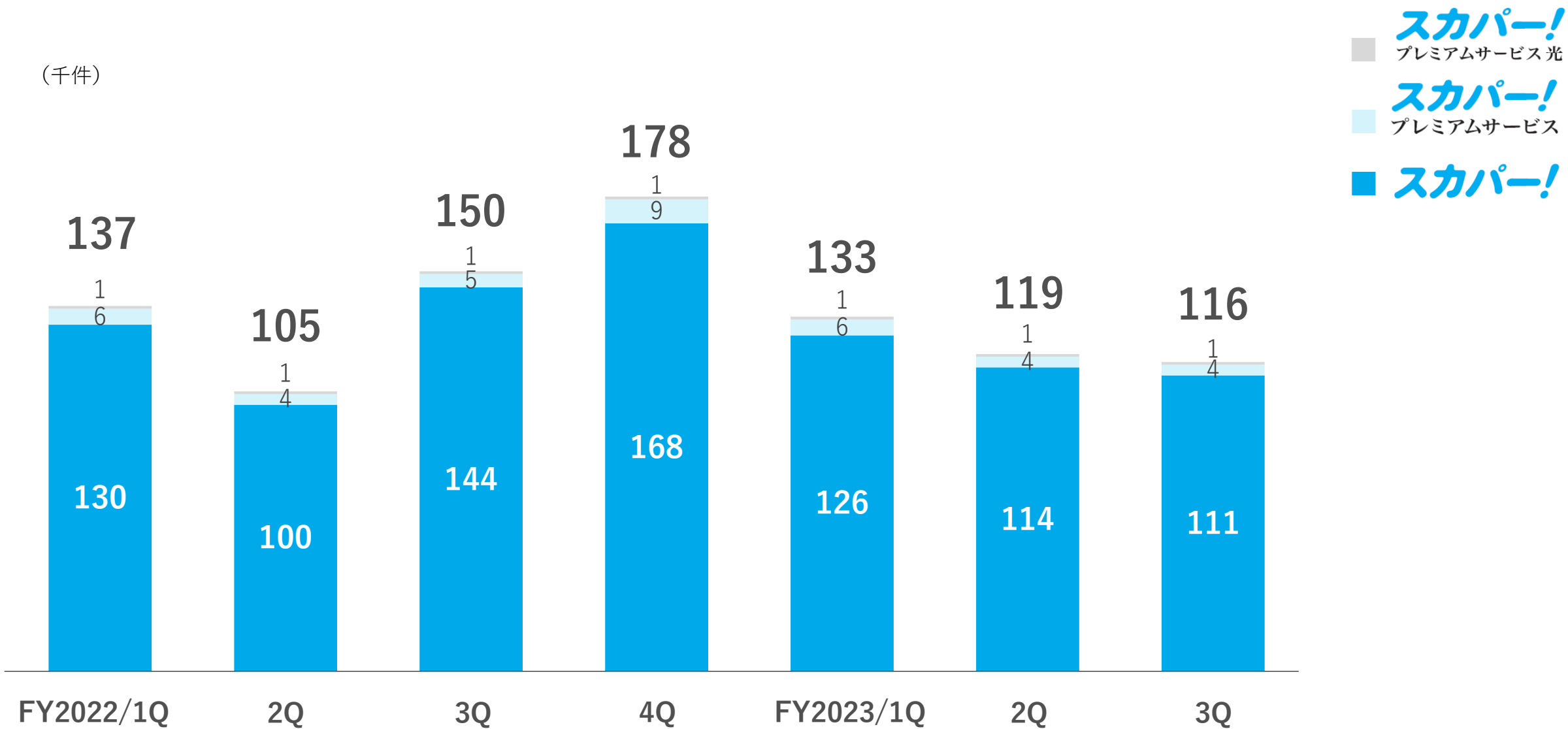
*2. 借入金+無担保社債

主要指標（メディア事業）

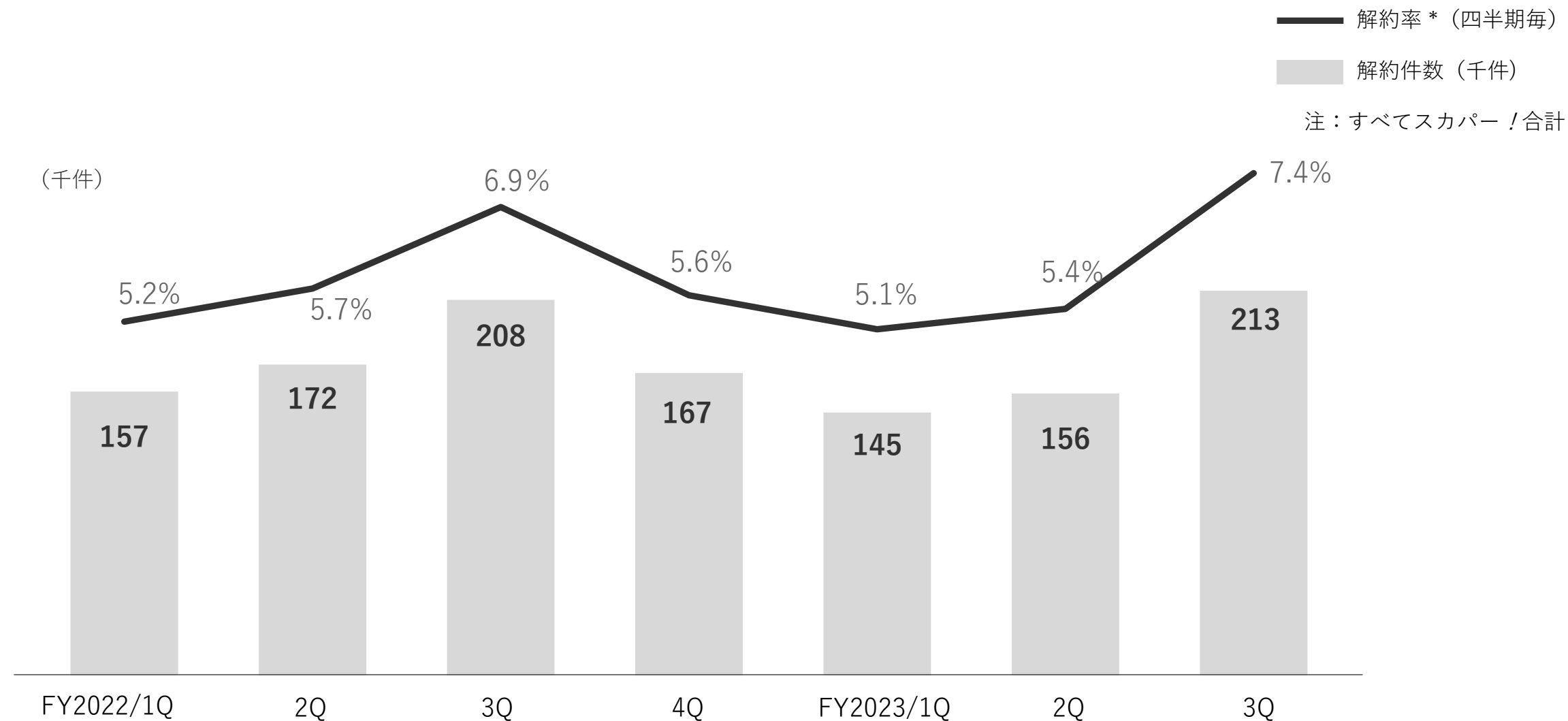
	2022年度 3Q累計	2023年度 3Q累計	2023年度 加入目標
新規（IC数：万件）	39.2	36.8	56.4
純増数（IC数：万件）	△14.5	△14.5	△13.3
（スカパー！）	（△8.7）	（△9.7）	（△5.4）
（スカパー！プレミアムサービス）	（△5.3）	（△4.6）	（△7.5）
（スカパー！プレミアムサービス光）	（△0.3）	（△0.3）	（△0.4）
累計加入件数（IC数：万件）	286.4	273.0	274.2
累計契約者数（契約者数：万件）	225.0	212.1	212.6
光再送信サービス接続世帯数（万件）	260.6	271.1	273.5
契約者月額支払単価（円）			
スカパー！	3,338	3,352	
スカパー！プレミアムサービス	3,538	3,510	
スカパー！プレミアムサービス光	5,067	5,000	

新規加入件数の推移（IC数）

(千件)

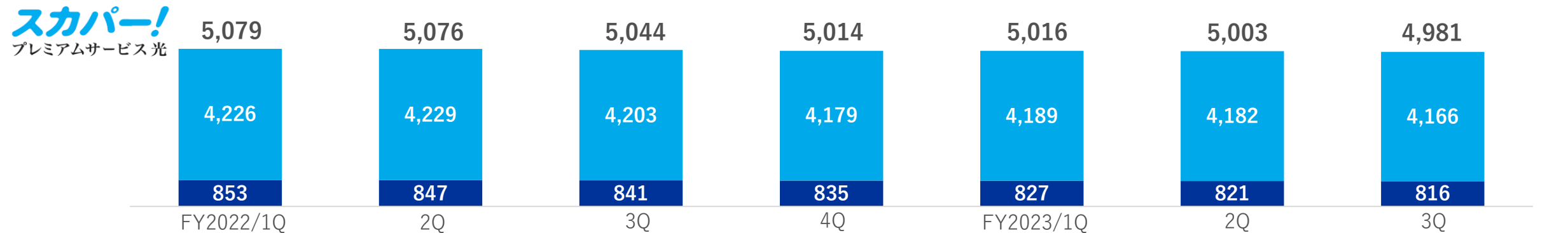
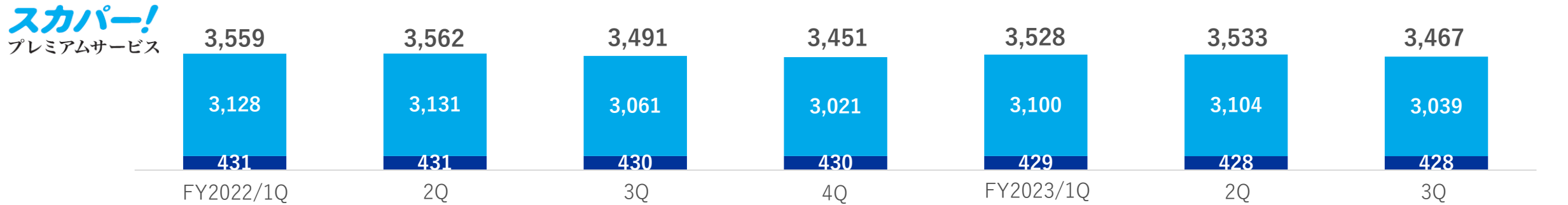
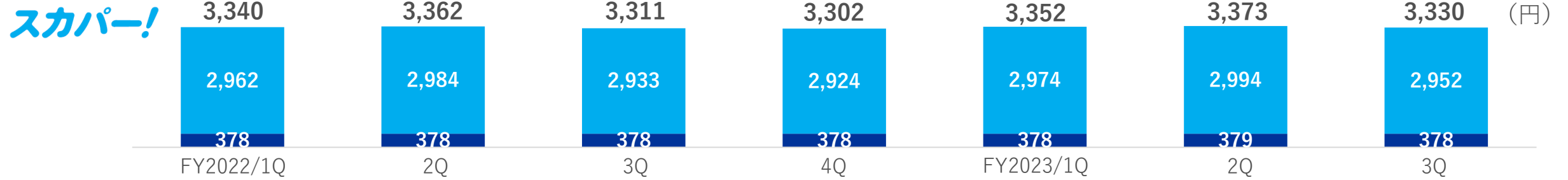


解約率の推移 (IC数)



* 各四半期の解約件数合計を前年度末の累計加入件数で除した率を表示しております。

契約者支払単価*1



■ 基本料その他*2

■ 視聴料

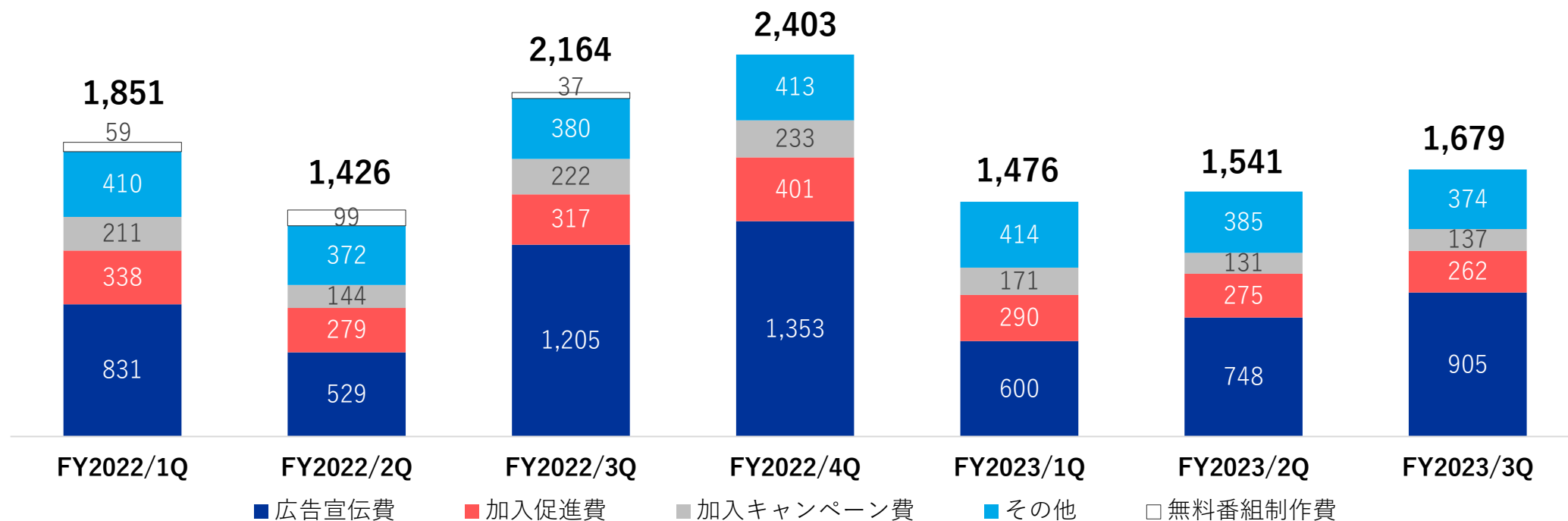
*1 契約者が支払う月額視聴料等の平均単価。月額単価は「契約者」単位で算出しております。

契約者が支払う視聴料のうち、スカパー!では約30%を業務手数料、スカパー!プレミアムサービス、およびスカパー!プレミアムサービス光では、番組供給料を控除した約50%を視聴料収入として収益認識しております。

*2 基本料及びセットトップボックスレンタル料。

顧客獲得費用総額 (SAC)

(百万円)



■ 広告宣伝費：各種媒体での広告宣伝費用

■ 加入促進費：スカパー！加入促進のための費用(パンフレットや会場販促)、販売インセンティブ

■ 加入キャンペーン費：新規加入キャンペーン費用(アンテナサポート等)

■ その他：加入獲得にかかるカスタマーセンター運営費用等

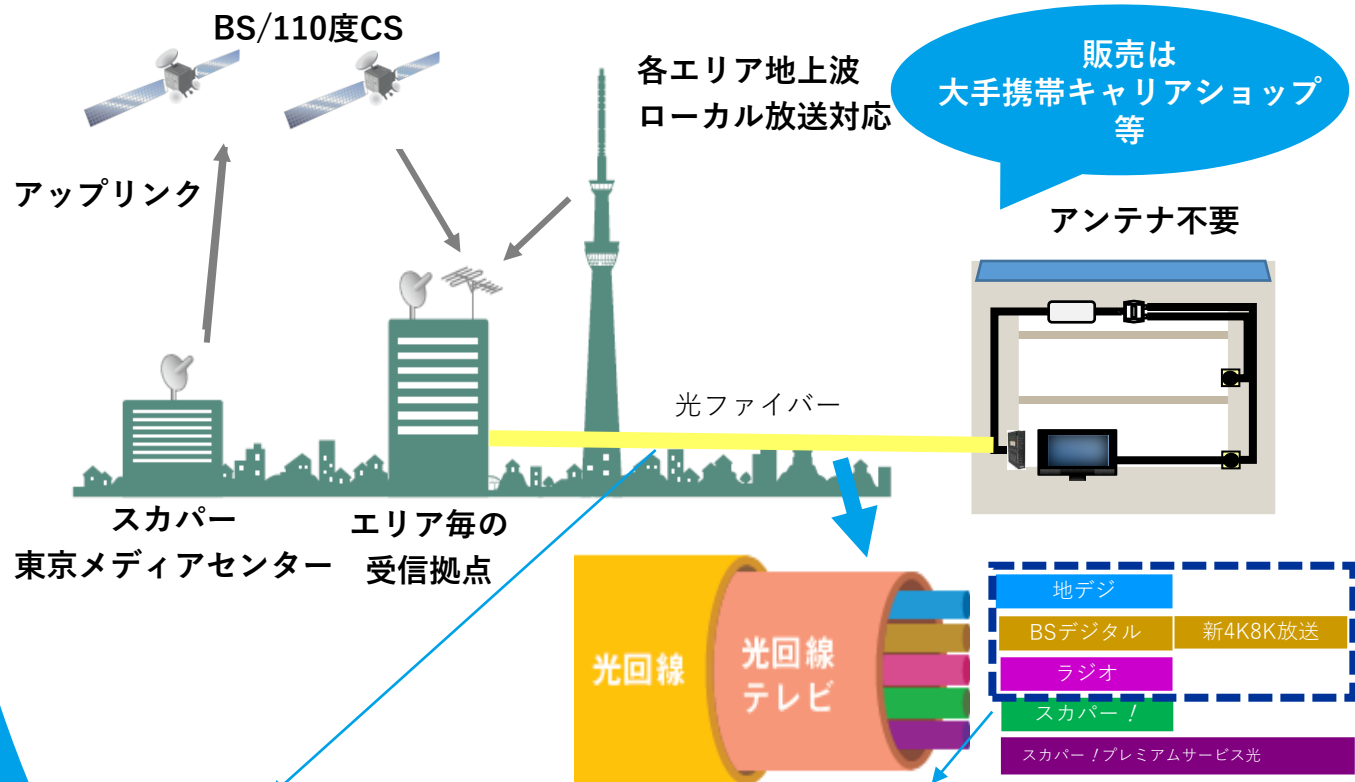
□ 無料番組制作費：BSスカパー！等の番組制作費用（22年10月末閉局のため、以降は発生なし）

	Kuiper	Starlink	OneWeb	LightSpeed
衛星機数 (計画)	3,236機	(第1世代) 4,408機 (第2世代) 7,500機	(第1世代) 648機 (第2世代) 360機	198機
サービス 周波数	Ka Band	Ku band	Ku Band	Ka Band
通信速度	約数百Mbpsクラス			
サービス 提供状況	<ul style="list-style-type: none"> ・2026年～ サービス開始予定 	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス提供中 	<ul style="list-style-type: none"> ・一部地域 サービス提供中 ・日本国内提供準備中 	<ul style="list-style-type: none"> ・2027年後半 サービス開始予定
当社取組	<p>【当社】 NTTグループと 戦略的協業に合意</p>	<p>【当社】 Starlink Business 2023年12月～提供</p>		

※EUROCONSULT SATELLITE CONNECTIVITY AND VIDEO MARKET 2023を元に当社にて作成。一部当社調べ含む。

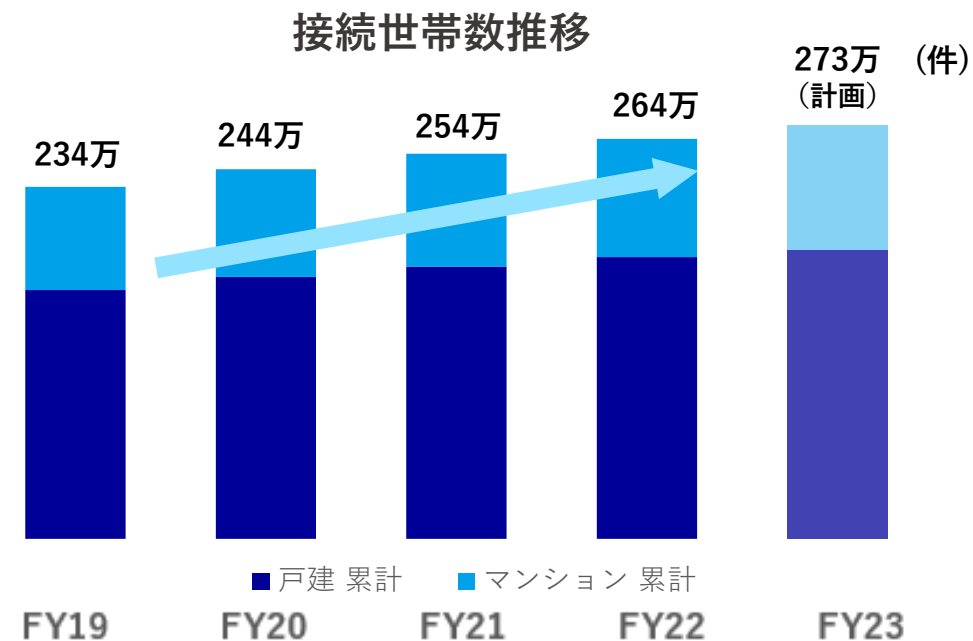
FTTH事業(光再送信サービス)の仕組み

- ・戸建・マンション向けに光回線サービス上で地上波・BS・CS放送等を再送信
- ・提供エリアは世帯カバー率76%まで順調に拡大



- 提供可能世帯数：約4,280万世帯（37都道府県）
- 世帯カバー率：約76%*（対47都道府県総世帯数）

* 国勢調査世帯数より算出



費用：
通信事業者への回線料等

月額利用料：825円

テレビ視聴サービス330円/月（スカパーJSAT提供）
+ 光回線テレビ伝送サービス495円/月（コラゴ事業者提供）
※料金は戸建ての場合（税込）

FTTHパススルー事業（2022年11月より開始） 提携ケーブルテレビ事業者を拡大

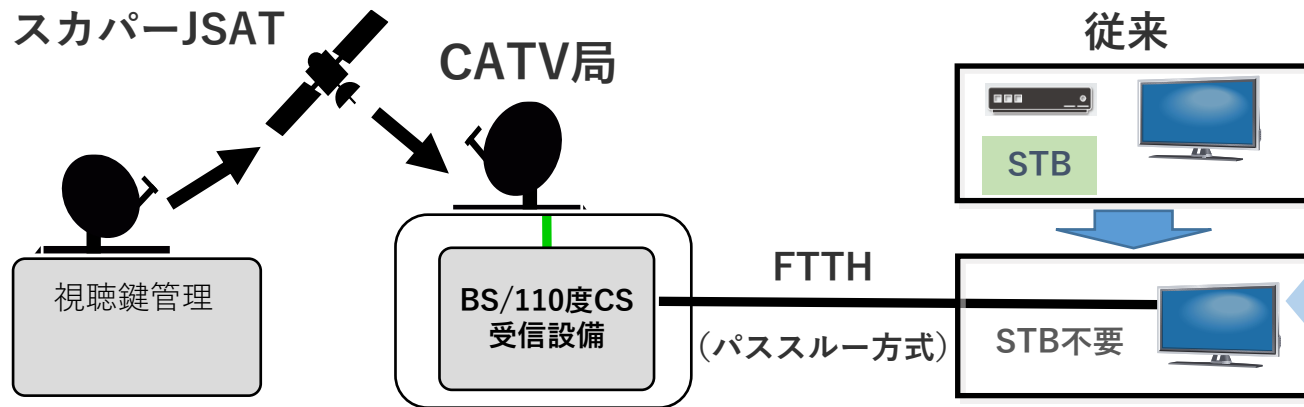
MEDIA

FTTH

衛星通信と視聴鍵信号管理技術を使ってケーブルテレビ事業者の課題を解決

- ケーブルテレビ統括運営会社 株式会社CCJ（三重県四日市市）と協議合意
- 2023年12月末時点 合計17局
- 17局の総接続世帯数合計 約66万世帯 ※出典：ケーブル年鑑2023

【サービスイメージ】
スカパーJSAT



<主な導入メリット>

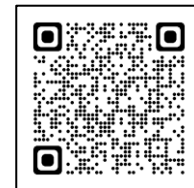
- ・ ACAS対応への設備投資コスト削減
- ・ お客様宅のSTB不要
- ・ 多チャンネル放送サービス継続 等

<サービスの詳細はこちら>

視聴制御機能提供

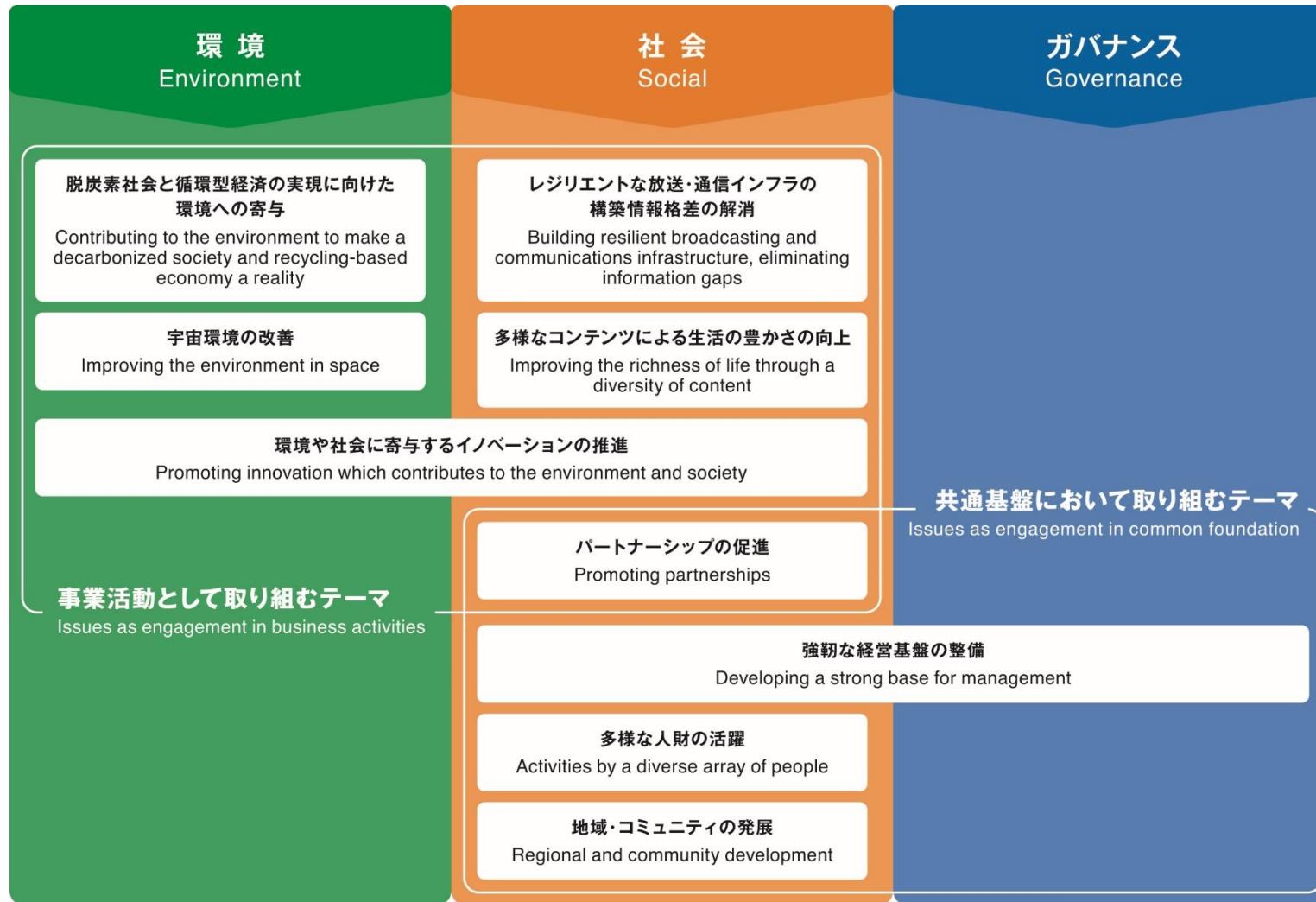
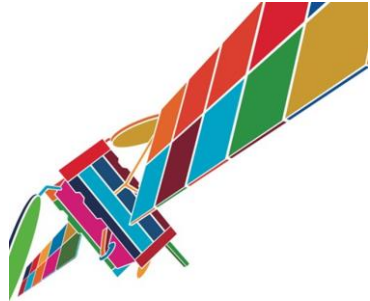


- 収入)
- ・ 登録料（初回）
 - ・ 鍵管理手数料（月額）



ケーブルテレビ事業者とは、スカパー！番組配信の普及促進や、CTV(ドングル)戦略等、更なるアライアンス強化を目指す。

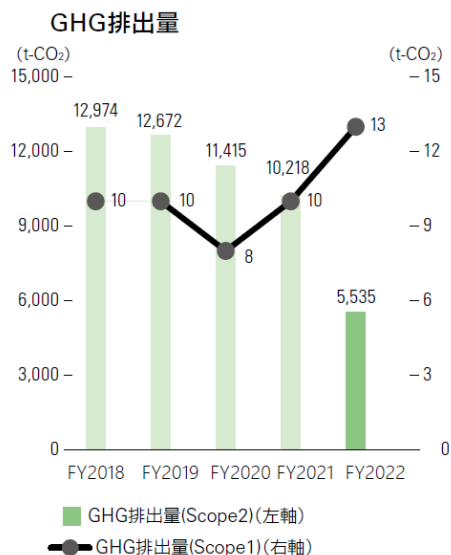
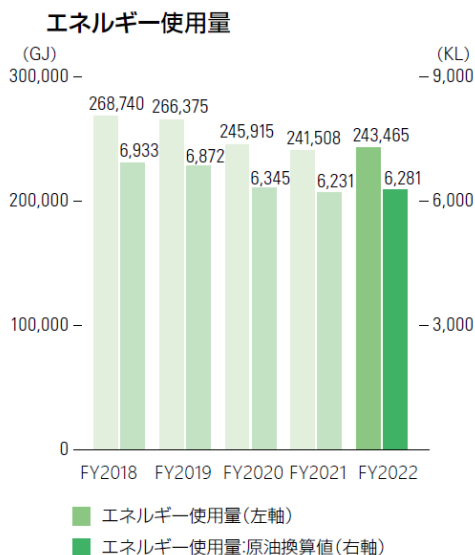
9つの重要課題（マテリアリティ）テーマ



当社グループのサステナビリティ詳細は、こちらをご覧ください。
<https://www.skyperfectjsat.space/sustainability/>



ESGデータ ※スカパーJ S A T(株)単体での集計（廃棄物総排出量を除く）



廃棄物総排出量

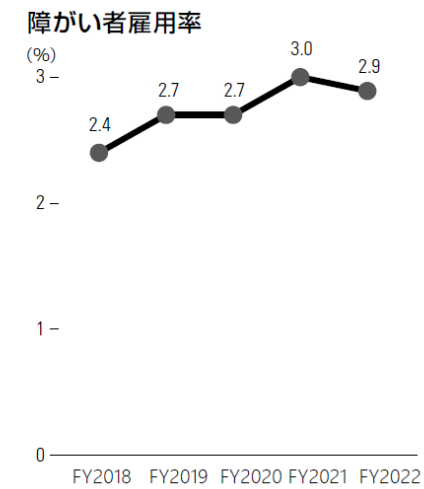
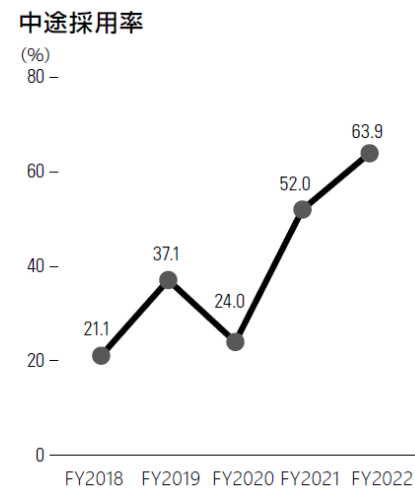
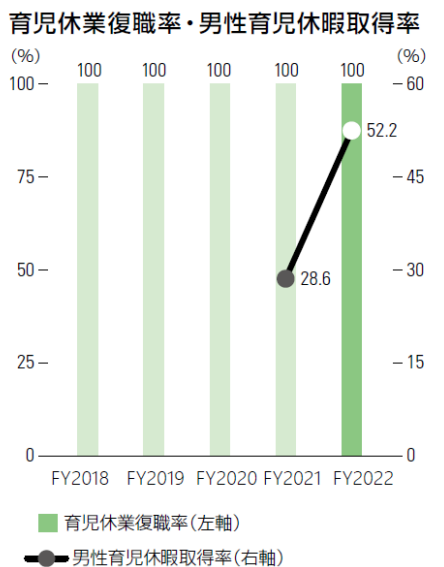
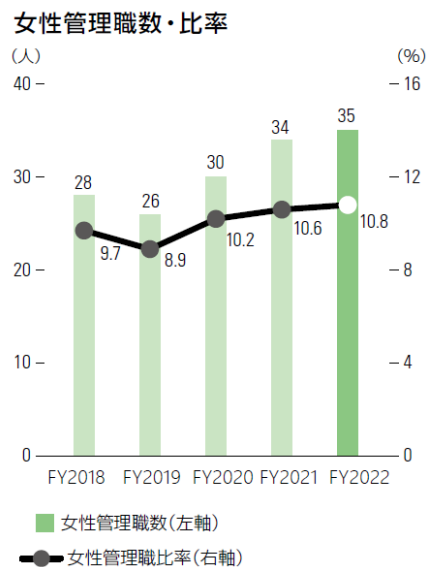
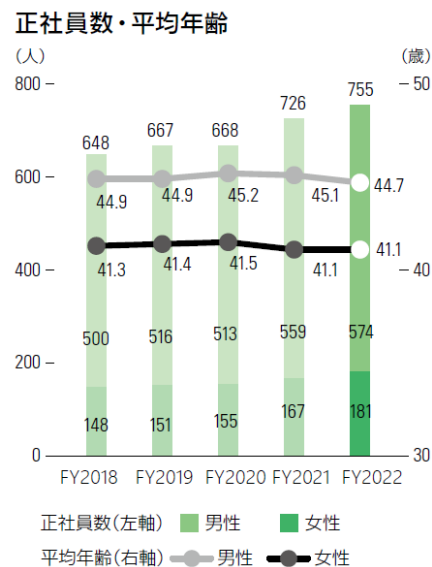
2022年度 (2022/4/1～2023/3/31) (t)

産業廃棄物等総排出量計	94,214
一般廃棄物等総排出量計	43,694
総排出量合計	137,908

(株式会社スカパーJSATホールディングス及び国内連結子会社のうち株式会社スカパー・カスタマーリレーションズを除く一部)

Scope1: 温室効果ガスの排出源からの直接的な大気中への温室効果ガスの排出量
 Scope2: 他者から供給を受けた電気、熱の利用により発生した電気、熱の生成段階でのCO₂排出量 (サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドライン(環境省・経済産業省))
 GJ(ギガジュール:エネルギー量の単位)、t-CO₂(重量トン:エネルギー使用量をCO₂基準で換算して重量表示)

2022年度実績の各ESGデータは
 当社グループサイトにて公開予定しています。
<https://www.skyperfectjsat.space/sustainability/esg/>



Space for your Smile

不安が「安心」にかわる社会へ
不便が「快適」にかわる生活へ
好きが「大好き」にかわる人生へ

Space for your Smile には、私たちの目指す世界が描かれています。

宇宙も、空も、海も、陸も、家族が集うリビングも、ひとりの自由な場所も、

これらすべての Space が笑顔で満たされるように。

日常のちょっとした幸せから、まだ見ぬ未来の幸せまで、

ひとりひとりの明日がよりよい日になっていく、そんな世界を創りつづけます。



本資料に関するお問い合わせは、下記担当部までお願い致します。

株式会社スカパーJSATホールディングス

広報・IR部

TEL : 03-5571-1515

FAX : 03-5571-1760

E-Mail: ir@skyperfectjsat.co.jp

 *SKY Perfect JSAT Group*

The logo consists of a stylized white graphic element resembling a bird or a flame with a red dot, followed by the text "SKY Perfect JSAT Group" in a white, italicized sans-serif font.